

令和3年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市中学校	校長	枝廣 泰知	生徒指導主事	幸田 峻一
-----	-------------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『文化活動発表会』
-------	-----------

取組における育てたい資質・能力					
-----------------	--	--	--	--	--

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	2	「主体性・積極性」	1	「自己理解・自らの自信」	3

取組のねらい					
--------	--	--	--	--	--

○企画や運営から生徒が主体的に参加し、学年・学級の枠をこえてかかわり合うことで、学校集団としての活力を高める。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『キーワード「結び」』
○生徒会執行部だけに頼らない役割分担	○生徒会執行部を中心としつつ、全学年の文化委員に一人一役を与えることで、全員で文化活動発表会を作り上げる雰囲気作りをした。
○廿日市中学校伝統のソーラン節をオープニングで披露	○縦割り活動が難しい中、ソーラン節では各学年の有志を募り、本番に向けて練習に取り組んだ。(昨年度は3年生の有志のみで実施。)
○各学年の発表	○1・2学年は各クラスによる合唱を発表した。3年生は何を発表するかから生徒が考え、英語劇・合唱・ダンスの4つに分かれ発表した。当日までの練習も各グループにリーダーを決め、リーダー中心に生徒主体で取り組んだ。
○文化部の発表(放送部・吹奏楽部)	○発表できなかった文化部(情報科学部・美術部・茶道部)は、別日で展示発表やおもてなしなどを行った。
○振り返りでのメッセージ交換	○他学年や部活動への感想をメッセージカードに記入し、それをまとめ校内に掲示した。

取組の成果と課題					
----------	--	--	--	--	--

○行事全体的に3年生中心になりがちではあるが、準備からは全学年の文化委員、ソーランでは全学年の有志が行うことで、1・2年生にも自覚と責任感を持たせ、またコロナ禍において少人数ではあるが、異学年交流も行うことができた。

○3年生の発表については、合唱という枠にとらわれず、ダンスや英語劇などを行うことで、後輩に向けて新たな可能性を広げてくれた。また、リーダーを中心に生徒主体で取り組むことで、自己存在感や仲間とともに作品を作り上げる達成感を感じることができた。

●本番に向けて様々な制限がある中で、生徒が一人一人成功体験を持てるよう教職員がさらなる支援及び創意・工夫をしていく必要がある。